

令和4年度第1回仙台市経営戦略会議（令和4年8月17日開催）

議事概要

1	日 時	令和4年8月17日（水） 13:30～
2	場 所	仙台市役所本庁舎2階第1委員会室
3	出席委員	熊沢由美委員、小粥純子委員、斎藤範夫委員、佐藤博美委員、菅井茂委員、関美織委員、館田あゆみ委員、山口強委員、渡邊浩文委員〔計9名〕
4	欠席委員	青木ユカリ委員、星幸司委員、馬場正尊委員、山崎喜代宏委員〔計4名〕
5	事務局	総務局長、総務局次長、総務局人材育成部長、総務局総務部行政経営課長、総務局人材育成部人事課長、まちづくり政策局次長兼デジタル戦略推進部長、まちづくり政策局政策企画部政策企画課長、財政局財政部財政企画課長、財政局財政部財政課長代理、市民局市民活躍推進部長〔計10名〕
6	担当課	総務局総務部行政経営課
7	次 第	
	(1) 開 会	
	(2) 議 事	・「仙台市役所経営プラン」及び「仙台市定員管理計画」の令和3年度実績について
	(3) 報 告	・「第2期仙台市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗状況について
	(4) 閉 会	
8	会議資料	
	資料1-1	仙台市役所経営プラン 令和3年度実績報告の概要
	資料1-2	仙台市役所経営プラン 令和3年度実績報告・進捗管理シート
	資料1-3	仙台市定員管理計画 令和3年度実績について
	資料1-4	仙台市定員管理計画に係る今後の取組について
	資料2-1	「第2期仙台市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗状況について
	資料2-2	「第2期仙台市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における6つの基本目標と対応する数値目標の実績
	資料2-3	国の交付金（地方創生推進交付金）を活用した事業の実績
	参考資料1	第2期仙台市まち・ひと・しごと創生総合戦略（人口ビジョン及び総合戦略）概要

（1）開 会

事務局（司会）

皆様、本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまより令和4年度第1回仙台市経営戦略会議を開催いたします。

開催に先立ちまして、事務局より、新型コロナウイルス感染症対策のお願いがございます。会議中はマスクを着用いただくとともに、可能な限り、身体的距離の確保をお願いいたします。また、換気のため定期的に窓を開閉させていただきますので、ご了承くださいませよう、よろしく願いいたします。

申し遅れましたが、私は本日進行を務めさせていただきます総務局行政経営課の八重畑と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは初めに定足数の確認をさせていただきます。本日は9名の委員の皆様にご出席をいた

いておりまして、定員 13 名の過半数を超えておりますので、定足数を満たしていることをご報告申し上げます。ウェブ形式にてご参加いただいておりますのは、小粥委員、佐藤委員のお二方でございます。また、欠席となりましたのは青木委員、馬場委員、星委員、山崎委員の 4 名でございます。

それでは、議事に入ります前に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

<配布資料の確認>

次に、審議運営について、委員の皆様へのお願いでございますが、ご発言される際はお名前を名乗っていただいた上で、マイクにできるだけ近づき、ご発言いただきますようお願いいたします。なお、音声聞き取れなかった場合には、再度ご発言の確認をお願いする場合がございますので、予めご了承ください。それではお手元の次第に沿って進めてまいります。ここからは、渡邊会長に会議の進行をお願いいたします。

(2) 議 事

渡邊会長

それでは、次第に基づき会議を進めさせていただきます。議事に入る前に、本日の議事録署名委員の指名を行いたいと思います。前回の会議では佐藤委員をお願いいたしましたが、署名は出席委員の五十音順としておりますので、本日分については菅井委員をお願いしたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

菅井委員

承知いたしました。

渡邊会長

ありがとうございます。それでは議事に移りたいと思います。議題はひとつでして、「仙台市役所経営プラン」及び「仙台市定員管理計画」の令和 3 年度の実績についてです。まず、仙台市役所経営プランに関する内容を、事務局より説明をお願いいたします。

事務局（行政経営課長）

<資料 1-1、資料 1-2 に基づき説明>

渡邊会長

ご説明ありがとうございます。それでは、ただいまのご説明につきまして委員の皆様からご意見やご質問などをご発言いただきたいと思いますがいかがでしょうか。それでは斎藤委員お願いいたします。

斎藤委員

資料 1-1 で、令和 3 年度実績報告の概要をご説明いただきました。この内容を見ると、取組みによる効果額が合計で 78.9 億円ということで、大変効果があったというように思いますが、この数字をよく見ると、市税や国民健康保険料、介護保険料による収入の増加による効果額が大部分を占めています。昨年度の値も気になるので、昨年資料を見ましたら、効果額は合計で 58.1 億円ということでした。今年資料には、市税、国民健康保険料、介護保険料と 3 つの歳入が記載されていますが、昨年資料には介護保険料に関する記載がありません。昨年のことを改めて聞くのもどうかと思うのですが、昨年に介護保険料の効果額を計上していない理由は何かあったのでしょうか。それとも、今までは介護保険料にはあまり着目していなかったけれども、今回はあえて取り上げたのでしょうか。

事務局（行政経営課長）

介護保険料に関しましては、資料 1-2 の 25 ページをご覧くださいと思うのですが、令和 2 年度の効果額は 4.35 億円と試算しております。概要の資料には、歳入と歳出、両方の項目を載せておりまして、昨年の資料の中では介護保険料について触れていませんが、令和 2 年度実績でも効果額が計上され、令和 3 年度実績も 4.8 億円と増加しています。

斎藤委員

例えば資料 1-1 の効果額とその内訳は一致しているように感じますが、昨年度の資料を見る限り、介護保険料の効果額が計上されていないように思います。この場で昨年のことを今更とやかく言うことはおかしいと思うのですが、横並びで見た時に、どのような効果があったのか、その効果の推移はどうだったのかには疑問符が付きます。

事務局（行政経営課長）

資料 1-1 は、効果額の合計とその内訳の数字が合うように作っているのですが、項目の一番下に「その他の取組みの推進」という項目があり、約 1 億円と記載しています。この項目には、プラスの効果額だけでなく、人員増などによるマイナスの効果額も含まれており、それを合算すると約 1 億円となるものです。この資料では主な取組みのみを記載しており、そのような内訳までは説明しておらず、分かりづらいところがあったかと思っております。

斎藤委員

ということは、「その他の取組みの推進」という項目にはプラスの効果もあれば、マイナスの効果もあり、それらを合算したものが効果額ということになっているという理解でよろしいですか。

事務局（行政経営課長）

その通りでございます。

斎藤委員

効果額の大部分を占める市税、国民健康保険料、介護保険料を見ますと、平成 26 年度の収納率と比較し、その上乘せ分を効果額として算定しており、これは毎年努力の成果が表れてきているためだと思います。ただ、毎年収納率が上昇しているうちはいいのですが、当然これには限界があると思います。何らかの事情で収納率が低下していく場合、負のスパイラルではありませんが、効果額がマイナス何十億円という形で表れる恐れがあります。新たに始まった市役所経営プランの効果測定においても、同じような手法を用いて効果額を表していく予定でしょうか。

事務局（行政経営課長）

新たなプランは、昨年度に策定しておりまして、効果額の比較の対象となる基準年は基本的に最新の決算の値を用いることとなります。ご指摘の通り、かなり数字が上がったものと比較しての伸びを効果額として計上することとなりますので、もし収納率が下がることになれば、マイナスの効果額を計上することになるかと思っております。これまでと同じように効果を見える化していきたいと考えておりまして、新たなプランにおいても、収納率は若干上がることを目標に進めているところでございます。

斎藤委員

確かにこれまでの効果額の計上の仕方から考えれば、ご説明いただいたようなやり方になっていくのですが、自ずと収納率にも限界があるということで、いずれ効果額が逆転することもあり得ると思います。そのような状況になった時に、この経営プランの効果測定として適切かというこ

とは考えなくてはいけないと思います。マイナスの効果になるということは、一生懸命取り組んだとしても効果が上がっていないということだと思いますので、次年度以降の実績の取りまとめにあたっては、そのようなことも勘案しながら、単に数字だけを強調しないようにすることを検討していく必要があるのではないのでしょうか。

渡邊会長

他の委員の方々はいかがでしょうか。

菅井委員

先ほど全体的な進捗をお話しいただいたのですが、コロナ禍の中で目標が達成されたかどうかという点を考えると、△の評価が少なすぎるのではないのでしょうか。○がこれほど多いわけがなく、少し評価が甘いのではないかというのが全体的な感想です。例えば女性職員の活躍推進という項目で、女性職員の昇進試験の受験率は目標に達成しませんでした。市長部局の管理職に占める女性職員の割合は最高に達したから○と評価されています。これはそうではないのではないのでしょうか。このような評価をしている項目が結構ありまして、この目標達成状況の評価については、もっと厳格にし、各部局にご指導いただければと思います。自分たちで評価しているのだから、自分に甘くなるというのは当然です。その自己評価をそのまま進捗管理シートに記載するということが問題ではないのでしょうか。以上でございます。

渡邊会長

ありがとうございます。もし事務局からご意見があればお願いいたします。

事務局（行政経営課長）

ご意見ありがとうございます。確かにご指摘の通り、数値目標を掲げていたとして、必ずしも数値目標を割り込んだからと言って、△にしているというものでもありませんので、次年度以降の評価の手法は考えさせていただきたいと思います。

渡邊会長

はい。それでは山口委員お願いいたします。

山口委員

この目標達成の状況の◎、○、△は、菅井委員が質問したように、各部局が自分で自分を評価しているということですね。先ほど斎藤委員も質問されましたが、市税などの収入の確保については、かなり効果として上がっていることは分かりますけれども、例えばその他の取組みで1.2億円と記載されていますが、ここにはどのような取組みがあったのかも思います。それから、◎、○、△という評価をどのように付けているのでしょうか。例えば、金額ベースでいくら達成したら○などと考えることができれば分かりやすいのですが、とにかく資料の数は膨大です。昨年度も質問したと思うのですが、×という評価はないのでしょうか。×がないと分かりづらいと感じます。△についても、内容を見てみたのですが、どうしてこれが△なのか分からなかったため、△は金額でみればいくらだったのか分かればいいのかとこの膨大な資料を見て感じました。

渡邊会長

仙台市の経営について、せっかく我々のような外部の人間が見ておりますので、ありていに言うとして自己点検を厳しめにしていただくことをご検討いただいてもいいのではないかと思います。もちろん、すべての評価が甘いというわけではないとは思いますが、より確度を上げることができるように進めていただきたいと思います。他に、オンラインで参加している方々から何かご意見はあ

りませんか。いかがでしょうか。

佐藤委員

歳入の増加について、様々努力されていることかと思うのですが、財源の確保を積極的に行っていく施策をさらに考えていただきたいと感じております。先日、日経新聞に、秋田県や福島県、宮城県の大和町などの税収が4倍になったという記事が掲載されていまして。東日本大震災の影響もあったかと思うのですが、企業は利便性のいい仙台市にもっと進出したいという意向が十分にあると思います。人材の確保の点から見ても非常に優位だと思えます。今も様々な施策に取り組んでいらっしゃると思いますが、今後大きく税収を伸ばすためには、ぜひ積極的に企業誘致活動を行っていただくことを検討いただければいいのではないかと思います。

渡邊会長

佐藤委員、ありがとうございます。それでは事務局からよろしく願いいたします。

事務局（総務局次長）

まず、お二方からは進捗管理の評価について、その評価基準が甘くなっているのではないかとということをご指摘いただきました。この点については、各部局で自己評価した上で、行政経営課でも横に並べてみて、厳しすぎる部分はないか、甘い部分はないかということに気を付けているのですが、ただそうは言っても、実際どうなのかというご質問をいただきましたので、この点についてはご納得いただけるような形にできるように考えてまいりたいと思います。

また、佐藤委員からも企業誘致の推進についてご意見をいただきまして、もちろんこの点については力を入れていかなくてはいけないと感じておりますので、すぐには効果が出ないかもしれませんが、地道に取り組んでまいりたいと思っております。ご指摘ありがとうございました。

渡邊会長

ありがとうございます。それでは、山口委員よろしく願いいたします。

山口委員

先ほど他の委員も市税収入について質問されましたが、大変個人的な話をさせていただきたいと思えます。実はこの間、仙台市から葉書が届きまして、私の市税が300円多かったということでした。300円多かったのでお返しします、ですから銀行口座の番号を教えてくださいとのことだったので、300円をいただくのにどれだけの費用がかかるのかと考えてしまって、私は何も返事をしておりません。税金の徴収額が多いか少ないかという話は結構あるものなのではないでしょうか。84円の切手を貼った送り返す封筒が入っていて、300円というお金のために、わざわざやり取りをするのは憚られるように感じて、寄付しようかと思うのですが、そのような場合はよくあるものなのではないでしょうか。

事務局（総務局次長）

このような場合があるかないかというお話しですが、若い頃、税について携わっていたことがありますので、そのお話をさせていただきたいと思えます。間違いを見つけて、更正するようなことはありまして、間違いを見つけたらすぐに直しておりました。ですので、あるかどうかと言われればあるかと思えます。感想めいた話しかできませんが、以上となります。

渡邊会長

まだご意見やご質問があるかもしれません。他に何かありますか。

齋藤委員

2点確認します。前プランの最終年度の実績報告の一方で、並行的に現プランを策定し、スタートしているかと思います。これまでも実績等を踏まえてプランの修正や見直しをやられてきました。現プランが策定されて間もないわけですが、令和3年度の実績を踏まえて、現プランの修正や見直し等は今後あり得るのでしょうか。

それから、私が議会で所属している総務財政委員会において、市役所経営プランのパブリックコメントの結果報告がありました。パブリックコメントの中では、敬老乗車証の見直しやごみ処理手数料の見直し、保育所等の負担のあり方を検討することについての意見が多かったのですが、各委員からもこの点について発言がございました。その際、当局からは、各担当局から見直しの必要性を提起されているので市役所経営プランに取りまとめており、今後の見直しは各局において進められますとご説明されています。一方で、各局においては、これは市役所経営プランに掲げられていることなのでその方向性に沿って見直すという弁法を使う可能性も大いにあると思います。市民の関心が非常に大きい敬老乗車証等の見直しなどについては、現在担当局でどのように具体的な検討が行われているのかご説明いただきたいと思います。

事務局（行政経営課長）

まず、新しいプランの項目の見直しについてですが、今回の作業に当たりまして、新たに追加できる実施項目があるかどうかを庁内に確認をした上で、今のタイミングでは、お出しするものはなかったというところがございます。ただ、プランの中でも触れています通り、実施項目については新たに追加するものや進捗があったものについては、また見直しをするということにしておりますので、適宜タイミングを見て追加や修正をしていきたいと考えております。

次に、パブリックコメントでご意見をいただきました敬老乗車証等の検討についてですが、各局とは常々ヒアリングなどを行いまして、情報の共有等をしているところです。基本的には、今回令和3年度の実績でご説明したような形で、年に1度は必ず進捗の確認をこの場でもしていきたいと思っておりますが、進捗度合いによりましては、改めて実施項目の修正や追加をしていきたいと考えております。

渡邊会長

注意していきましょう。この件について、他にいかがでしょうか。もしなければ次の議題に移りたいと思っておりますけれども、よろしいですか。また、いつもお願いしていることですが、後日、何かあれば担当課にお問い合わせいただければと思います。それでは、次の仙台市定員管理計画に関する内容について、まず事務局より説明をお願いいたします。

事務局（人事課長）

<資料 1-3、資料 1-4 に基づき説明>

渡邊会長

ありがとうございます。令和3年度の実績と今後の取組みについてご報告いただいたかと思えます。いかがでしょうか。委員の皆様、ご質問やご意見等々ありましたら、ご発言いただきたいと思えます。それでは館田委員よりお願いいたします。

館田委員

ご説明ありがとうございます。職員数についてですが、最近自治体 DX などに関して他の都市の話を見ると、効率化等によって職員の数を減らしていることや、1人当たりの職員の方が見る市民の数が福岡市が一番少ないこと、神戸市などは阪神淡路大震災の後に職員数を30%以上減らしたことなど、デジタル化や ICT 化の推進で効率化を非常に進めた結果そのようになっているという話を

聞く機会が多いです。すべて鵜呑みにできるものではありませんが、そもそも仙台市は政令市の中で、職員数が多いほうなのか少ないほうなのかをお伺いしたいと思います。

また、これは意見ですが、定員管理についてこれから計画されていく上では、業務の効率化や若い方々が入ってくるための働き方改革もセットで考えていく必要があるのではないかと思います。

事務局（人事課長）

まず、他都市との比較について申しますと、市民1万人当たりの比較についてのデータがございまして、手元のデータの指標では一般の事務部門では福岡市が指定都市で1位となっております。その中で、仙台市は20政令市中7番目に少なく、中程度と考えております。令和3年の定員管理調査という国の調査によれば、福岡市は1万人当たり36.34人の職員数でして、仙台市は43.36人となっております。教育や消防など、それぞれ順位に差はありますが、教育や消防の分野を加えた合計でも、20政令市中10位でして、中程度でございます。

また、働き方についてもご意見いただきましたが、やはり働き方の質も含めて職員の人数なども考えていかなくてはいけないと思っております。先ほどお話に合ったDXの取組みについても、市役所経営プランの中でも今後の効率化の取組みとして取り上げていますが、今、国を上げて全国の共通の標準的なシステムを組んで共通化していく取組みもあり、短期的にはそれに関わる職員数が必要になるかと思えます。将来的には効率化が図られて、そのマンパワーを別の分野に振り分けることができるようになるという期待はありますが、現在は産みの苦しみの段階にあるのではないかという風に感じております。

館田委員

ありがとうございます。人数は大体中位からそれ以下ということで安心しました。そのような定員管理を進めていただければと思います。

また、デジタル化に関して進んでいる神戸市の話聞いたところ、平成27年には在宅勤務を導入しコロナの際には全職員がテレワーク可能な環境となっているなどオンラインで仕事を相当効率化していることをアピールされています。このような点について仙台市は遅れているのではないかと思いますので、ぜひ積極的に進めていただいて、働きやすさと効率さ、職員数の適正さなどをご検討いただければと思います。

渡邊会長

ありがとうございます。それでは関委員よりお願いいたします。

関委員

定員管理計画を拝見したのですが、何人という括りからは抜け出せないのでしょうか。例えば中小企業であれば、現在は若い人たちが少なく貴重になっているため、若い人達を集中的にキャリアアップさせるため、多能工化させたり、組織を横断してリーダーになるような研修を行ったりしています。コンサルテーションの現場でも今は人がたくさんいる現場がいいとは言われておらず、必要などころには適材が集中的に付き、人がいなくてもいいところには人を付けないなど、メリハリの付け方が必要になるかと思えます。組織の統廃合など仕組みを変えることに一緒に取り組んでいかなければ、例えばコロナが起きたから人が増えたなど、人単位の話でしか評価ができません。非常に頑張っている職員がいても、それは評価の物差しには入らないような気がするため、評価の目標値として何人というあり方だけでいいのか、今後検証するべきではないかと思えます。

また、先ほど副会長がおっしゃったように、効率化していく一方で、高齢の方が多かったり、医療現場だったり、事故などが多そうな場所においては、逆に人をもっと増やした方がいいのではないかと思います。人に対するメリハリの付け方について、全庁横断であり方を考えた上で、この人

数になっているという下調査や背景がなければ、1人増えたから良かった悪かったなどという話にしかならず、現場のサービスの善し悪しが見えないかと思います。市のサービスの満足度調査なども比較しながら、この部分を減らしても満足度が下がらなかったなどの調査も一緒に取り組んでいかなければ、これから少子高齢化になってきて、若い人が少なくなってきたときに、公共サービスが成立しなくなるのではないのでしょうか。計画の評価測定の上で、何人という測り方だけでいいのかずっと疑問に思っておりましたので、物差しの立て方を考えるとともに、定員管理計画と並行して何をしていくべきか、次回以降何かご報告をいただけるとより分かりやすいのではないかと思います。

渡邊会長

ありがとうございます。私もそれについては知りたいと思いましたが、事務局から何かご発言があれば頂戴したいと思います。今、返事ができないということであれば、次回以降とおっしゃってくださいますので、ご留意いただければと思います。要するに、人数だけの問題ではなくて、行政という仕事がより良いものになり、かつそこで働いている方が、充実感や幸せを覚えることができるようにしてはどうかということかと思います。それでは、事務局からよろしく願いいたします。

事務局（人材育成部長）

ご意見ありがとうございます。最終の結果としてこの職員数をご報告申し上げておりますが、我々といたしましても、年々行政需要が高まっているところや落ち着いているところを毎年精査した上で人員を増減させております。このような取組みは今後も続けてまいりますし、今般のコロナ禍にあっては、機動的に人の配置を変える必要性に直面をしております、できる限りのことはやっております。しかし、このようなことが起こり得るという前提のもと、より機動的な形で人のやりくりや人数の増減ができるよう、引き続き検討を続けてまいりたいと思います。

それから、職員の育成や働きやすさについては、どのような指標を設定するかはなかなか難しいのですが、どのようなことができるかについて、次期計画の中で検討してまいりたいと思います。

渡邊会長

どうもありがとうございます。それでは斎藤委員よろしく願いいたします。

斎藤委員

本市の定員管理計画についてのご説明でしたが、確かに定年制の延長に伴って定員管理計画の策定やその管理が難しくなっていることは理解できます。仙台市に限らず、自治体の現状を見ると、定員管理計画で把握している人数は、正規職員の人数です。また、定員管理計画と連動するものとして定数条例もありますが、これも正規職員に関するものです。ところが行政の実態として、正規職員だけでなく、非正規職員、現在は会計年度任用職員と呼んでいますが、そのような方々の力を借りなければ行政は運営することができません。そして、コロナ禍においても、1人10万円の給付金や子育て関係の業務など、様々な業務で業務委託を行っているかと思ひまして、定員の管理をしているだけでは自治体経営の実態が十分に把握できない状況にあるのではないかと思います。そのような中で、法律でも定めがあるため定数管理をしていますが、そもそも、本市では定員管理に関する計画はなく、行革プランの中で管理をしていました。そして議会でも色々取り上げられ、定員管理部分を抜き書きする形で計画を定めています。

正規職員の数をコントロールするのは財政的な負担が非常に大きいからなのですが、先ほど申し上げましたように、物件費の中にも人件費が入っているというような状況を鑑みると、定員管理だけでは技術的な問題があるのではないかと思います。定員管理計画は大事だと思いますが、その他の指標も用いながら、本市の経営管理を進めていくべきではないかと思うのですが、事務局からコ

メントいただければと思います。

事務局（総務局長）

確かに斎藤委員からお話がありましたように、我々の定員管理計画につきましては、あくまでも正職員について管理をさせていただいている状況でございますが、その他にも、会計年度任用職員が各部署で相当数一緒に働いていただいております。その方々についても、当然人件費は発生をしておりますし、業務の委託という形で外出しをして市の業務をやっていただいている状況もございますので、そのような状況をどのような指標で見せられるのかということにつきましては、少し時間をいただいて検討させていただきたいと思っております。

渡邊会長

いかがでしょうか。特によろしければ、議事を進めさせていただき、その上でさらに議論をして進めていきたいと思っております。

それでは、ここまでが議事として次は報告となります。第2期仙台市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について、まずは事務局より説明をお願いいたします。

（3）報告

事務局（政策企画課長）

<資料2、参考資料1、参考資料2に基づき説明>

渡邊会長

ありがとうございます。それではただいまのご説明について、委員の皆様からご意見やご質問などご発言いただきたくお願いいたします。いかがでしょうか。それでは、小粥委員どうぞ。

小粥委員

資料2-2④に、「希望する方が安心して結婚、出産し、子育てできる社会の実現」に取り組むということで、保育施設等の利用定員数は目標をほぼ達しているということでこれは本当に素晴らしいことだと思います。私も子供を二人育てて今大学生になっておりますが、東北福祉大学の保育園に入っておりました。そこは非常に環境が恵まれておりまして、遊ぶ場所も広く、施設も新しく本もたくさんあって、子育ての環境として素晴らしいと感じました。15年ほど前の事ですが、その時点でそのような環境がありましたので、子育ての環境が整っているということを知っていただけるような取組みをしてはどうかと思っております。

参考資料1の、基本目標の④で「子供の遊びの環境の充実、子育てに関する情報発信充実」と書かれているのですが、具体的にどのような情報発信をされているのでしょうか。

事務局（政策企画課長）

ご質問ありがとうございます。子育てしやすい環境整備という部分につきましては、今後の人口の確保や活力の維持という観点から積極的に取組みを進めていかなければならないと認識をしております。その中で、例えばせんだいのびすくナビという子育て情報サイトのアプリを開設し、情報発信の取組みを進めているところです。また、ホームページを通じて仙台の子育て施設の状況などを情報発信しております。

小粥委員

ありがとうございます。確かに子育ての情報発信を充実させていくことは素晴らしいことだと思います。

また、仙台市役所経営プランにおいて、ふるさと納税について言及がありました。仙台市は納税

額を増やしていらっしゃるようですが、仙台市の食べ物はおいしく、それは子育てにも非常に大事だと思えます。また、ふるさと納税は親子で寄付先を選んだりもしますので、例えばスポーツで言えば、ベガルタ仙台や楽天があったり、スケートでも羽生結弦さんがいらっしゃったりしますし、仙台はいいところだと思ってもらえるように様々な角度から情報発信をしていただくといいのではないかと思います。

渡邊会長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

菅井委員

資料の2-2④について、分からないところがあるので教えていただきたいと思えます。「安心して子育てができる社会づくりを評価する市民の割合」について、数字の見方が分からない部分はありますが、令和元年度が46.7%で、令和3年度は42.3%に減少しているかと思えます。同様に、仙台市が住みやすいと思う市民の割合や住み続けたいと思う市民の割合も令和元年度から減っています。これが具体的にどのようなことを物語っているのか、その原因は何かを教えてくださいたいと思えます。

事務局（政策企画課長）

ご質問ありがとうございます。ただいまご質問いただいたそれぞれの項目につきましては、本市が毎年実施しております市民意識調査の中で、子育て環境や仙台の住みやすさについて、あなたはどのように思われますかというような質問項目がありまして、それに対して肯定的に答えていただいた方の割合を毎年掲げております。仙台に住み続けたいと考える市民の割合につきましては、若干下がっているというのが実態でございます。こちらにつきましては、例年、88%前後で数字が推移しており、微妙に下がっていることは確かですので、地方創生の取組みの推進の中で、住み続けたいと言っていただける方が増えるように施策を展開していければと考えております。

菅井委員

そうであれば、2、3ポイントの差ということで、誤差の範囲内として考えていけばあまり変わりはないのではないかと思います。ただ、令和元年度と令和3年度の2つの数字しか見ておりませんので、分からない部分があります。私は町内会長を務めておりますが、やはり住み続けたいまち、安心して住むことができるまちを目指しております。そのような中で、全体的に低下傾向であるということであれば心配だと感じますので、それを改善するような施策を考えていただければと思います。

事務局（政策企画課長）

ご意見ありがとうございます。住みやすさの項目について若干補足させていただきますと、過去5回分の調査を振り返ると、88%前後で推移しておりまして、令和4年度の調査では2ポイントほど下がっております。この点について、まだ精査を続けているところですが、今回の市民意識調査の回収率が大幅に上がっていることが一因として考えられるのではないかと思います。前回調査の回収率が33%前後でしたが、今回の調査では回収率が51%まで上がっておりまして、これまであまり回答していただけなかった層、年代別で見ると比較的転居が多い層の方の回答率が上がっている状況です。1つの可能性として、そのような方々から、住み続けたいとは答えていただけなかった可能性があるのではないかと考えております。

渡邊会長

よろしいでしょうか。それでは館田委員よろしくお願いたします。

館田委員

資料 2-3 の地方創生推進交付金を活用した事業の実績について、見方が難しいなと思っております。どのぐらいのお金を使って、誰が行った事業なのかが分からないと、事業の結果が良かったのか悪かったのか理解することが難しいと思います。可能な範囲で構いませんので、これぐらいの事業規模で、この程度の成果だったということをご提示いただいた方がいいのではないかと思います。

また、どの組織の方々がこれらの事業に携わったのかが見るといいのではないかと思います。このようなプロジェクトは横断型でやっていくべきだと思いますが、複数の部署が関わっているのか、どこかひとつの部署で取り組んでいるのかが分かるといいのではないかと思います。今回でなくても結構ですが、次回はそのような情報も追加いただきたいと思います。

最後に、先ほどふるさと納税の話がありましたが、最近企業版ふるさと納税を使って、市町村の方々が自分たちの新しい事業に取り組む事例もいくつか出てきていると聞いております。企業版ふるさと納税など、大きな収入に繋がるようなものもぜひ積極的にご検討いただけるといいのではないかと思います。

事務局（政策企画課長）

ご意見ありがとうございます。資料については、次回以降より分かりやすい形になるよう、工夫させていただければと思います。また、企業版ふるさと納税については、まち・ひと・しごと創生総合戦略と密接に関連した形で施策が立て付けられているものでございますので、積極的に取り組んでいければと考えてございます。

渡邊会長

他にいかがでしょうか。それでは熊沢委員よりお願いいたします。

熊沢委員

私も資料 2-2、参考資料 1 の中にありました基本目標について、「④希望する方が安心して結婚、出産、子育てできる社会」という点について伺いできればと思います。まず、仙台は全国的に保育所の待機児童が多いということでニュースになっていたかと思いますが、本当によく頑張って定員を増やし、待機児童を減らされたのではないかと思います。

また、具体的に挙げられている施策を見ると、子育てに関するものがたくさんあるのですが、結婚に関する取組みは非常に難しいと思います。人口を増やしたり、少子化対策をしたりするにあたって、結婚しない人、結婚できない人が増えていることが大きな問題だと思いますので、仙台市でどのように取り組まれているのか伺いたいと思います。

事務局（政策企画課長）

ご質問ありがとうございます。結婚の推進に関する施策については、現在は具体的に紹介できるものはおそくないのではないかと思います。この戦略には、本市の実施計画と関連した事業を盛り込んでおりますので、今後どのような事業を展開していくのがいいのか、担当局の方とも相談したいと思います。

渡邊会長

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは最後に私から少しだけ話をさせていただきます。この第二期の総合戦略の進捗について、資料 2-1 の右上にまちづくり政策局と書かれているように、仙台市経営戦略会議にもいくつかの部局の方が参加されているかと思います。この会議でご報告いただいて、我々委員が意見を申し上げるという建付けは理解しているつもりですが、議

論にあたって、もう少し分かりやすい資料があるといいのではないかと感じました。この進捗状況については、毎年ご報告いただくことになるのでしょうか。少し資料のまとめ方を工夫していただけると理解が容易になるのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。

そろそろお時間も程よい感じではありますが、何かございますか。会場の皆さんよろしいでしょうか。オンラインのお二方、よろしいですか。それでは佐藤委員お願いします。

佐藤委員

資料 2-2①において、経済に関する項目の中で集中支援対象企業が 34 社と記載されていますが、具体的にどのようなことを実践されたのか教えていただければと思います。

事務局（政策企画課長）

こちらは本市の経済局で策定している経済成長戦略 2023 に位置付けた事業として、高成長が見込まれる企業や地域経済への高い波及効果が期待できる企業を選定して支援するものでございます。経済局の中で、選定審査会で選定しておりまして、例えば上場チェックリストに基づいて、上場に向けた課題の洗い出しや改善策の提案を行ったり、そのようなチャレンジを行いたい企業の経営層に対してセミナーを開催したり、フォローアップの面談を行ったりしております。

佐藤委員

ありがとうございます。そのような支援はどれくらいの期間行っているのでしょうか。人を派遣しているということでしょうか。

事務局（政策企画課長）

申し訳ありませんが、期間については手元に持ち合わせがございません。

佐藤委員

分かりました。結構です。ありがとうございます。

渡邊会長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。他にないようですので、以上をもちまして、本日の議事を終了したいと思います。それではここで事務局にお返ししたいと思います。

事務局（司会）

渡邊会長ありがとうございました。閉会にあたりまして、総務局長より一言ごあいさつを申し上げます。

（４）閉 会

事務局（総務局長）

本日は大変ご多忙のところ当会議にご出席を賜り、本市の行財政運営につきまして活発にご議論をいただきまして、誠にありがとうございます。

本日の会議では仙台市役所の経営プランの令和 3 年度の実績など、各議題についてご説明を申し上げまして、皆様方から、例えば市民税の収納率の考え方や評価全体のあり方、企業誘致も含めた財源の確保策や仙台市役所経営プランの見直しのあり方、定員管理計画につきましても働きやすさの観点や人員の考え方についてご意見をいただきました。我々としても様々なご意見を賜りまして、重ねて感謝を申し上げます。

今年度当初から、新たな市役所経営プランが始動しておりますが、現在は新型コロナウイルス感

染症も含め社会の変化が著しい状況でございまして、我々も自ら変化を遂げていく必要性を極めて実感をしている状況でございます。

令和4年度も、効率的・効果的な市政運営の実現に向けて、本市の行財政改革の実効性を高めるべく検討や工夫を重ねてまいりたいと考えておりますので、皆様方の幅広い見地からの忌憚のないご意見を引き続き賜りますよう、お願いをいたす次第でございます。本日は誠にありがとうございました。

事務局（司会）

それでは最後に事務局より連絡事項でございます。本日の会議の議事録につきましては、事務局で原案を作成いたしまして、皆様に確認いただいた後、菅井委員にご署名をいただく予定でございます。よろしくお願いたします。

以上をもちまして令和4年度第1回仙台市経営戦略会議を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

議事録署名委員の署名

◦会 長（渡邊委員）

渡邊 浩文

◦署名委員（菅井委員）

菅井 茂